

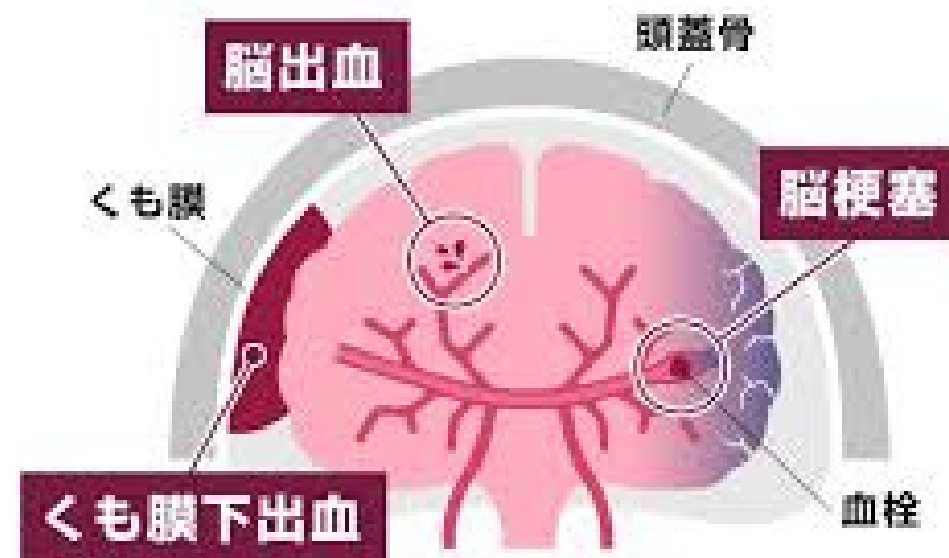
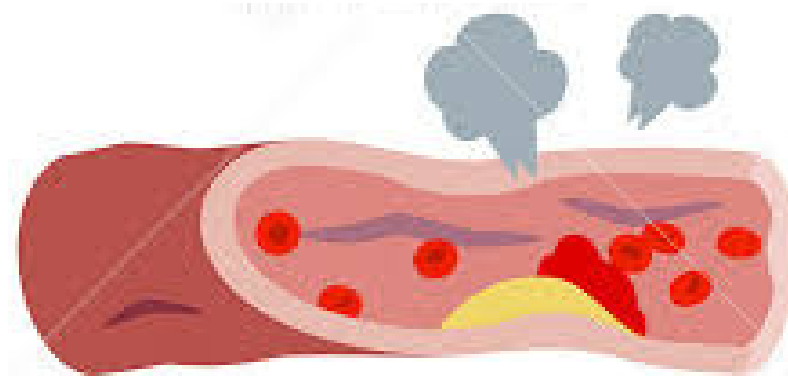
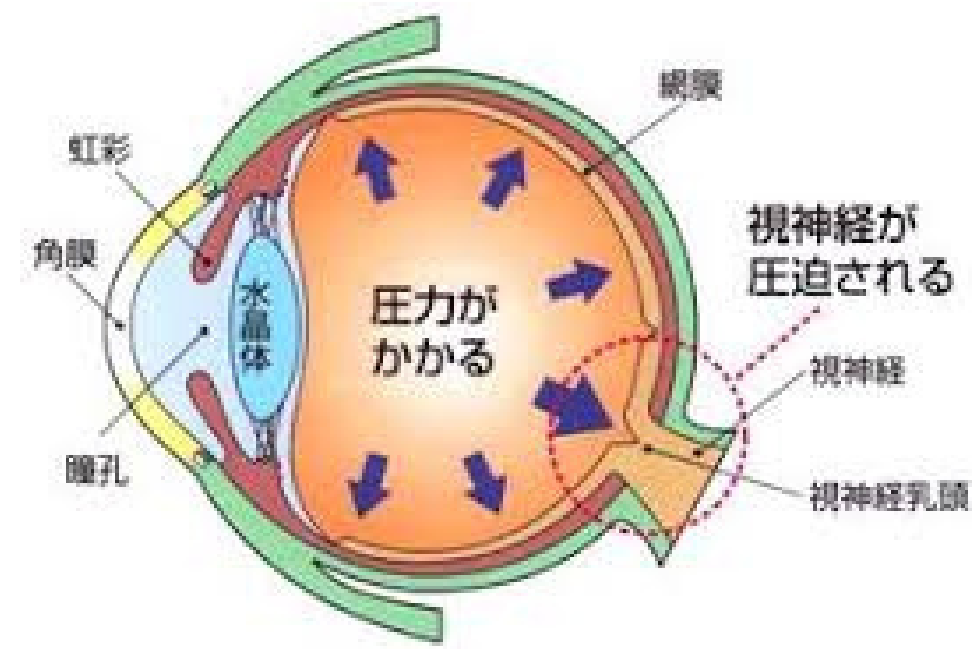
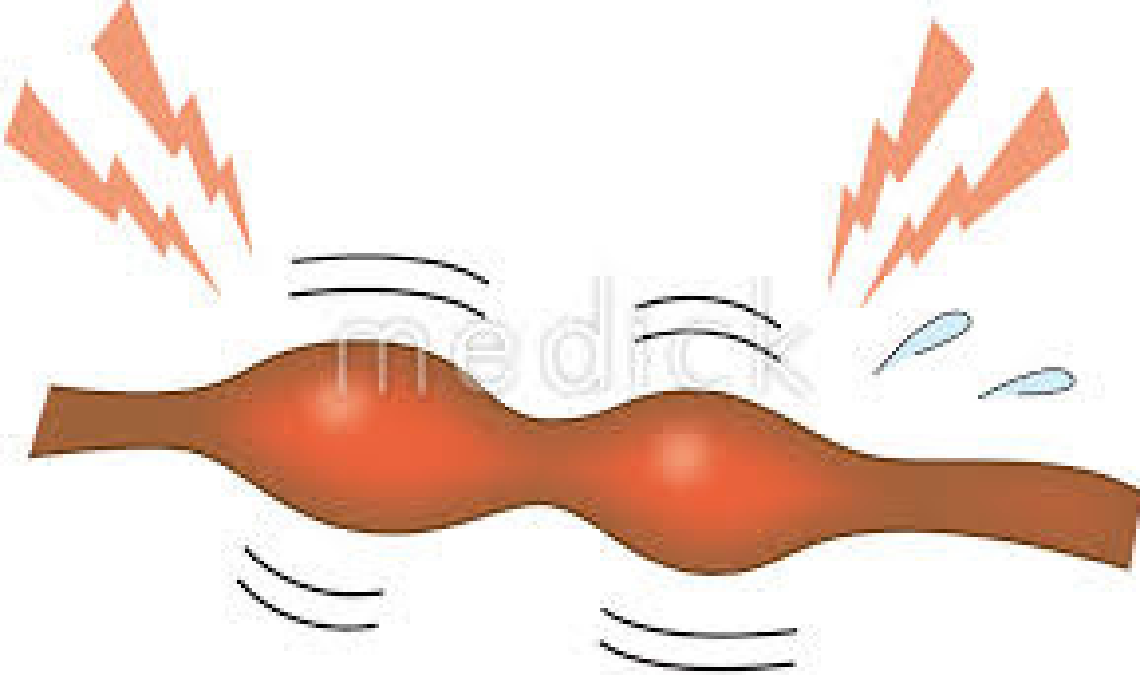
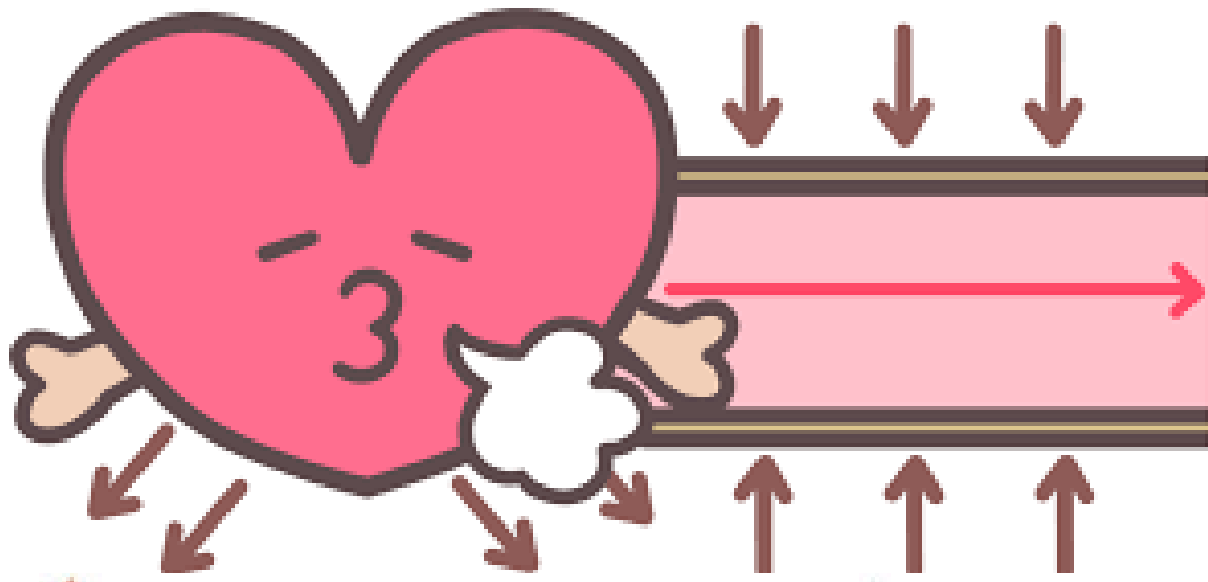
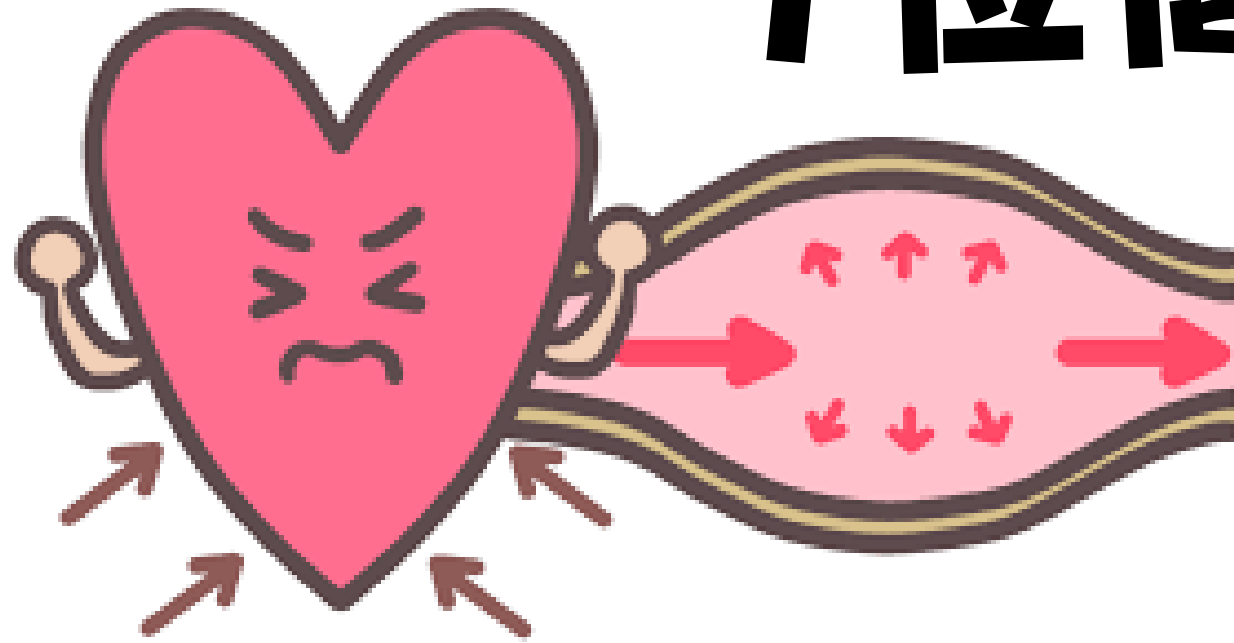
病気クスリベスト10

日本病気ベスト10

1位高血圧2位糖尿病3位心疾患4位脳疾患5位癌
6位慢性呼吸器疾患7位胃腸疾患8位肝疾患
9位腎疾患10位鬱病



1位高血压



1位高血圧症状

最高血圧が140mmHg以上、最低血圧が90mmHg以上

高血圧の原因となる生活習慣

血液が濁り、血管が詰まり、血液が流れにくく、心臓のポンプを一生懸命動かして血液を流そうとしている状態

高血圧の悪循環としては、血圧の高い状態が続くと動脈硬化が進んで血管が厚く硬くなり、内径が狭くなって血液が流れにくくなる



1位高血圧症状

高血圧は「沈黙の Killer」と呼ばれる。初期段階では自覚症状が現れることは少ないですが、進行すると症状が現れます。

1. **頭痛** 特に後頭部に痛みを感じることがあります。
2. **めまい** ふらつきを感じたり、目の前が暗くなることがあります。
3. **動悸** 心拍数が増加したり、心臓がドキドキする感じがすることがあります。
4. **息切れ** 普段の活動で息が切れやすくなることがあります。
5. **視力の変化** 視界がぼやけたり、視覚に異常を感じる場合があります。
6. **鼻出血** 血圧が非常に高い時に、鼻から出血することがあります。
7. **疲労感** 常に疲れを感じやすくなる場合があります。
8. **胸の痛み** 胸の圧迫感や痛みを感じることもある

血圧疾患のクスリと効果と副作用

- 1 **利尿剤** 余分な水分と塩分を排出し、血圧を下げる **低カリウム血症、脱水、腎機能障害**
- 2 **ACE阻害薬** 血管を拡張し血圧を下げる **咳、高カリウム血症、腎機能障害、皮膚の発疹**
- 3 **ARBs** 血管を拡張し血圧を下げる: **高カリウム血症、腎機能障害、めまい**
- 4 **カルシウムチャネルブロッカー** 血管のカルシウムの流入を抑え、血管を拡張し血圧を下げる **足のむくみ、頭痛、顔面紅潮**
- 5 **β 遮断薬** 心拍数を低下させ、心臓の負担を軽減し血圧を下げる **疲労感、冷え性、心拍数の減少、喘息の悪化**
- 6 **アルファ遮断薬** 血管を拡張し、血圧を下げる: **立ちくらみ、心拍数の上昇、水分貯留。**
- 7 **中心性 α_2 受容体刺激薬** 中枢神経系を刺激し、血圧を低下させる **眠気、口渇、血圧の急激な増減**
- 8 **交感神経遮断薬** 神経伝達を抑制し、血圧を下げる: **うつ状態、腸の運動低下、鼻つまり**

やせ型の糖尿病ゼロ食不向き



2位糖尿病



2位糖尿病

糖尿病の診断基準 ～空腹時血糖値 $\geq 126\text{mg/dL}$ の由来～
mg/dL ミリグラムマイデシリットル

- ①「空腹時血糖値が126 mg/dL以上」
- ②「随時血糖値が200mg/dL以上」
- ③「HbA1cが6.5%以上」

2つ以上当てはまれば「慢性の高血糖」があると考え
糖尿病と診断します。

1つの項目だけでは、糖尿病の診断にはならない。

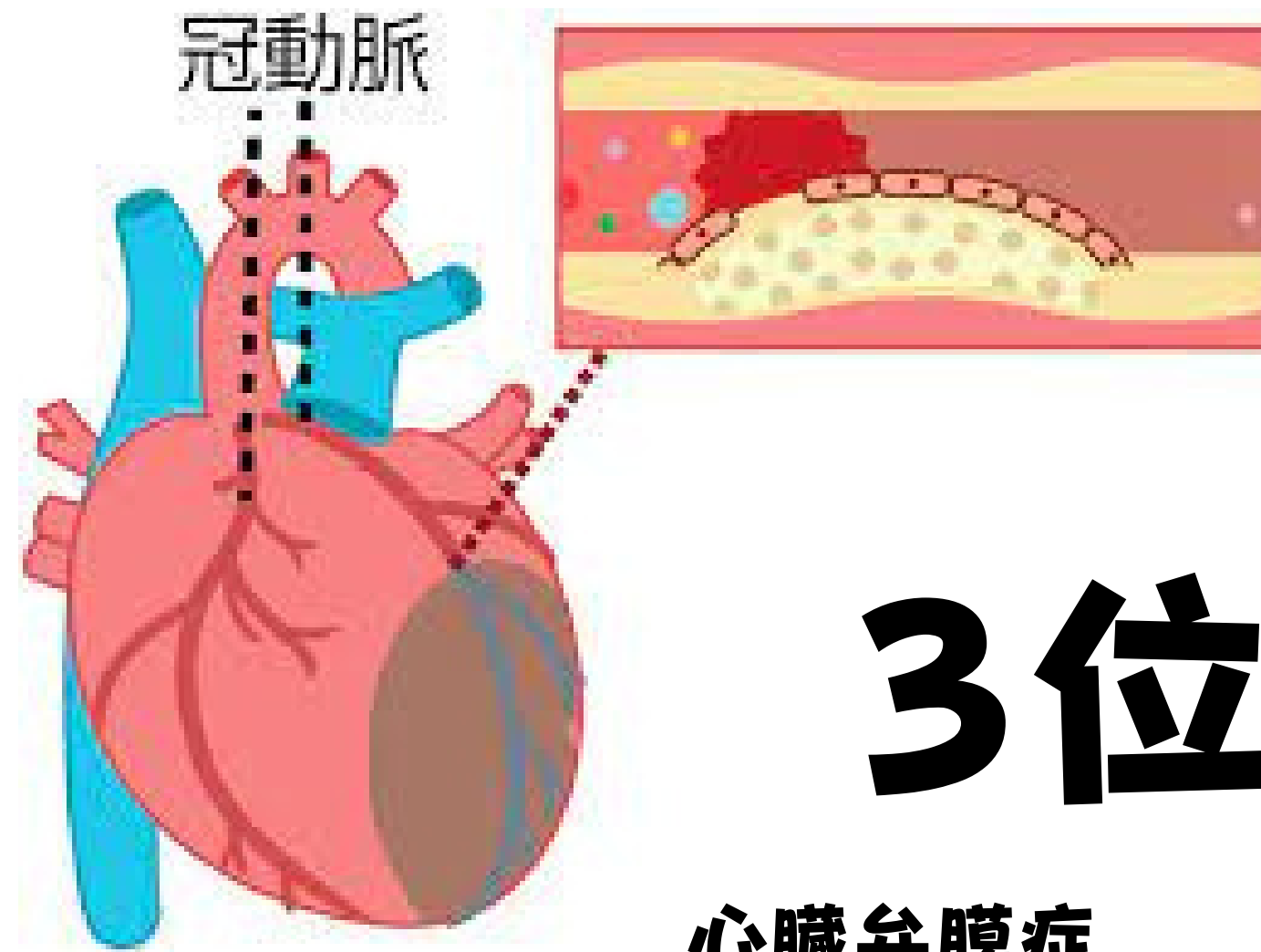
糖尿病症状

- ・インスリンの作用不足によりブドウ糖を使えなく、体がエネルギー不足で疲れ、だるさ。
- ・インスリン不足でエネルギー不足を、筋肉や脂肪が使われてしまい食べても、体重が減る重症の糖尿病では体重が減ります。
- ・のどがやたら渇き、たくさん飲みたくさん尿がでます。血糖値が高くなると尿に出てくるブドウ糖が増え、あわあわの尿がたくさん出ることで、脱水症状が起きる。
- ・糖尿病網膜症の症状で視力に異常がでることがあります。ひどい場合には失明する。
- ・手足の先がビリビリとしびれたり、痛みが出たりする。感覚が鈍くなって、足の裏に皮が一枚張っているように感じたり、痛みを感じにくくなることもある。
- ・糖尿病性腎症が進行すると、腎不全になり、手足や顔がむくむ症状
- ・傷が治りにくかったり、感染しやすくなったりします。
- ・神経障害による痛みの感覚がなくなり、傷があっても気がつかず、足の水虫が悪化、足壊疽(えそ)を起こす。

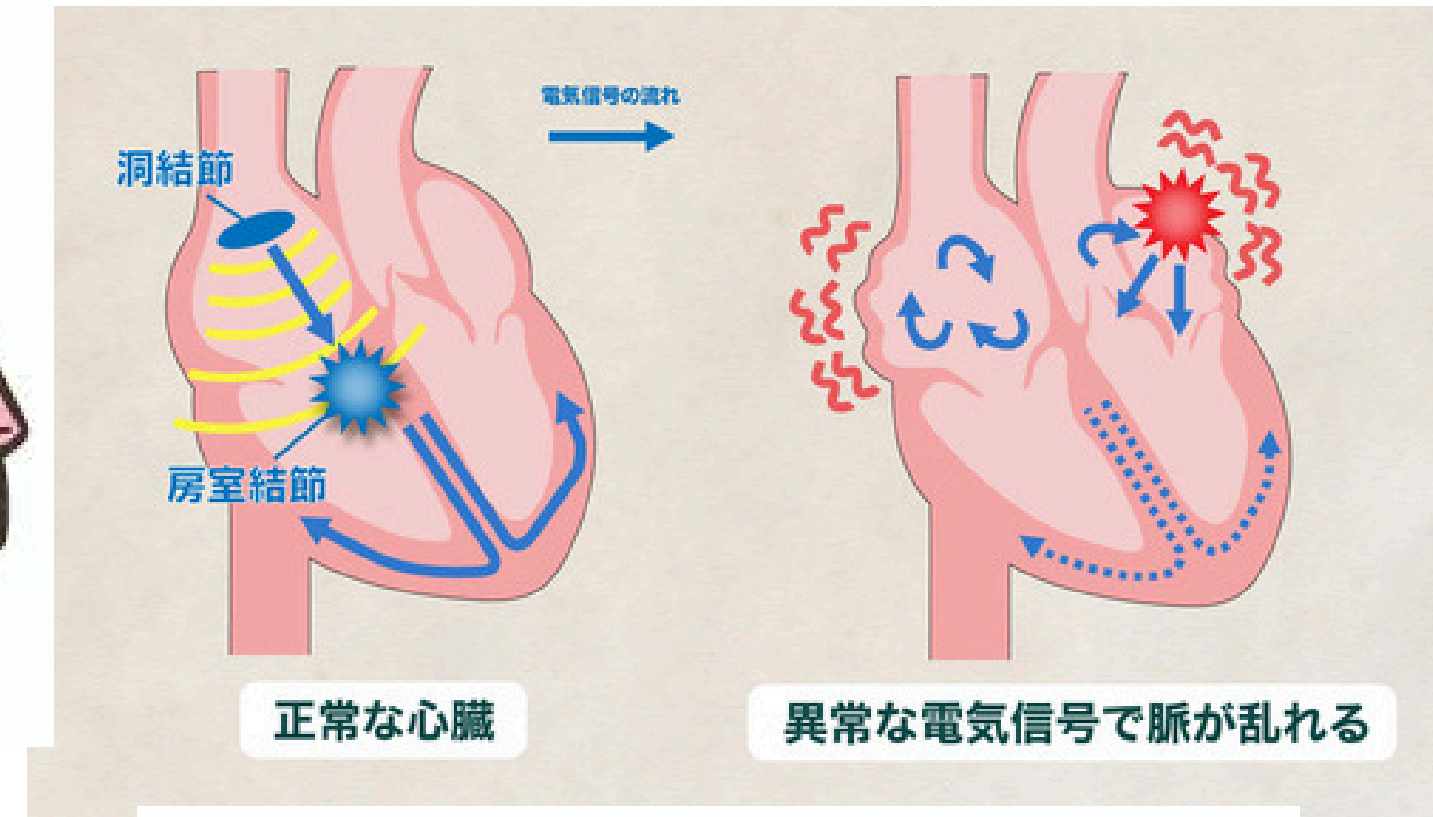
糖尿病クスリ効果副作用

- 1 **メトホルミン** 糖の生成を抑える **消化不良、下痢、胃痛、乳酸アシドーシス**
- 2 **チアゾリジンジオン(TZDs)** インスリン感受性を向上 **体重増加、浮腫、心不全**
- 3 **スルホニルウレア(SU剤)** インスリン分泌を促進する **低血糖、体重増加、皮膚反応**
- 4 **DPP-4阻害剤** インスリン分泌を増加させる **消化不良、頭痛、膵炎**
- 5 **GLP-1受容体作動薬** インスリン分泌食欲を抑える **吐き気、嘔吐、膵炎、体重減少**
- 6 **SGLT2阻害剤** 糖の再吸収を抑える **尿路感染、脱水、低血圧、足の感染**
- 7 **インスリン** 血糖値を直接下げるために使用される **低血糖、体重増加**
- 8 **グルコシダーゼ阻害剤** 食後の血糖値の上昇抑制 **腹部膨満感、下痢、ガスの発生**

虚血性心疾患

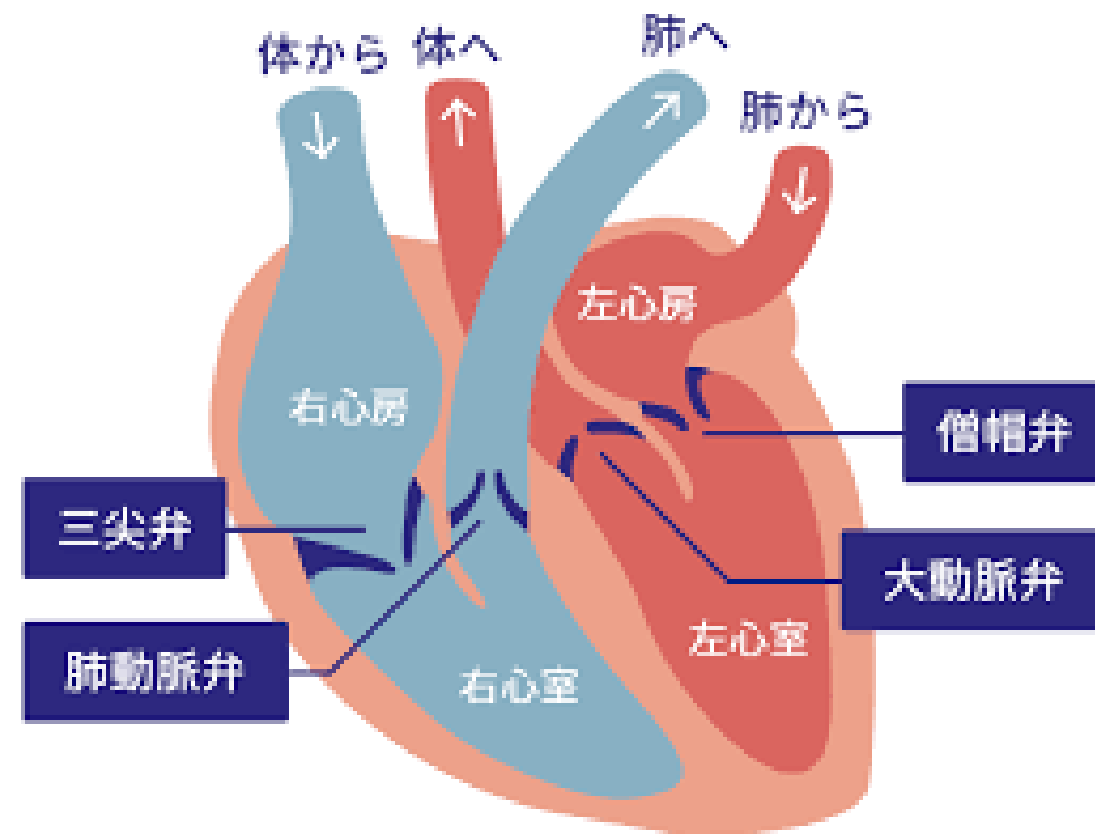


不整脈



3位心疾患

心臓弁膜症



むくみ



第3位心臓疾患

日本人の死因第2位は心疾患

年間で約21万人が心疾患で亡くなっており、全死因のうち約14.9%を占めています。

心臓の働きに異常が起こり、血液循環が上手くいかなくなることで発症します。代表的なものとしては虚血性心疾患・不整脈・心臓弁膜症・心不全などがあり、日本国内での患者数は約305.5万人と多くの人の病気です。

症状

加齢や高血圧などによって発症し、突然激しい症状が出るケースもありますが、息切れやむくみなどの場合は心疾患による症状だと自覚しづらい方もいるようです。

心臓疾患の症状

**動悸、息切れや息苦しさ、胸の圧迫感や痛み、顔や手足のむくみ
めまいや意識消失、夜間呼吸困難、高血圧
足の疲労や慢性的な疲労感、チアノーゼ（血が末端まで行き届かず青くなる）**

**特に、狭心症や心筋梗塞の症状としては、締め付けられるような胸の痛み。
前胸部、みぞおち、心臓の前やその奥に感じる
心臓病の症状は、胸以外の、喉や肩の痛み、手のしびれ、腹痛などが狭心症
や心筋梗塞のサインのこともあります。**

心臓クスリ効果副作用

- 1 **ACE阻害薬** 血圧を下げ、心臓の負担を軽減 心不全や高血圧の治療に使用 **咳 高カリウム血症、腎機能障害**
- 2 **β -ブロッカー** 心拍数を減少させ、血圧を下げる 心臓の負担を減らす。心不全や狭心症の治療 **疲労感、めまい、低血圧、悪夢**
- 3 **アスピリン** 血小板の凝集を抑え、血栓の形成を防ぐ。心筋梗塞や脳卒中の予防: **胃腸障害、出血傾向(特に消化管出血)**
- 4 **スタチン** LDLコレステロールを減少させ、動脈硬化を防ぐ。心筋梗塞や脳卒中のリスクを低下させる **筋肉痛、肝機能障害、消化器系の不調**
- 5 **ヘルスコルビ** 血管を拡張し、血圧を下げる。高血圧や狭心症の治療 **むくみ、頭痛、顔面紅潮**
- 6 **アルドステロン拮抗薬** 体内のナトリウムを排出し、体液量を減少させる。心不全の治療に使われる: **高カリウム血症、性ホルモン関連の副作用(例: 女性化乳房、月経不順)**
- 7 **水素交換体阻害薬** 心不全の症状を改善する。心臓のポンプ機能をサポート。 **電解質異常、腎機能障害。**
- 8 **抗血栓薬** 血小板凝集を抑制し、血栓形成を防ぐ。心血管イベントのリスクを低下させる: **出血、胃腸障害、皮膚反応。**

脳卒中



脳の血管がつまって
血が通わなくなるもの

脳梗塞



脳の血管が破れて
出血するもの

脳内出血
(脳出血)

くも膜下出血

図3 悪性脳腫瘍の好発部位

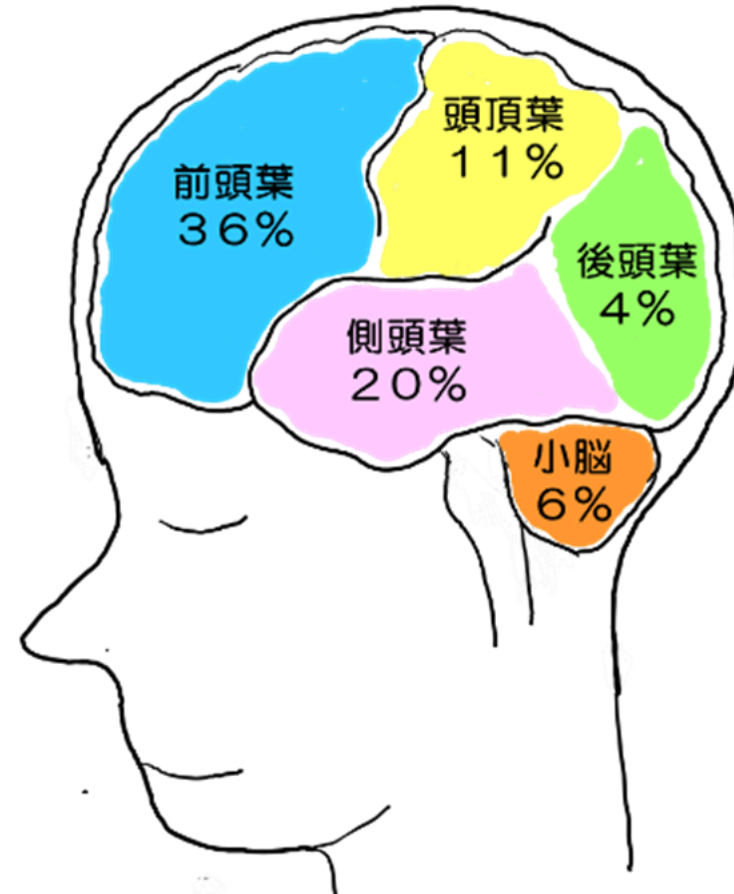
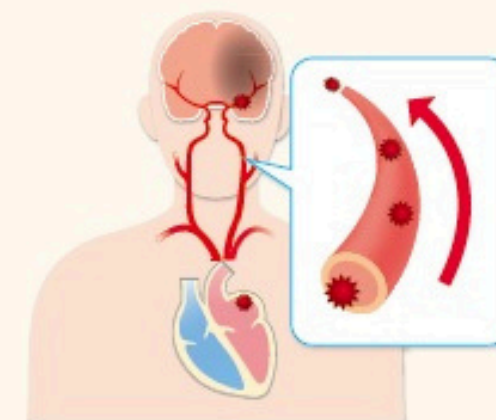


図2 脳梗塞の3つの病型

心原性塞栓症

血栓が脳の血管に
飛んで詰まる

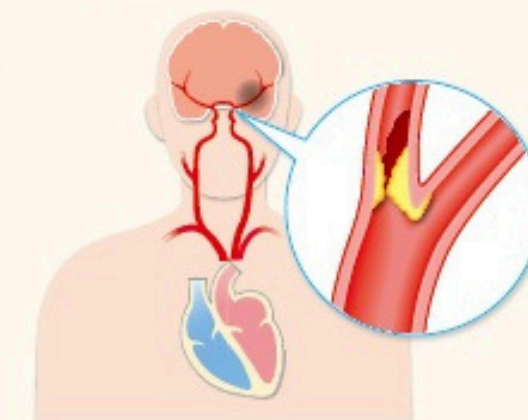


最大の要因は

心房細動 心筋症
不整脈などの
心疾患
心臓弁膜症 洞不全症候群

アテローム血栓性脳梗塞

脳の血管が動脈硬化を
起こして詰まる

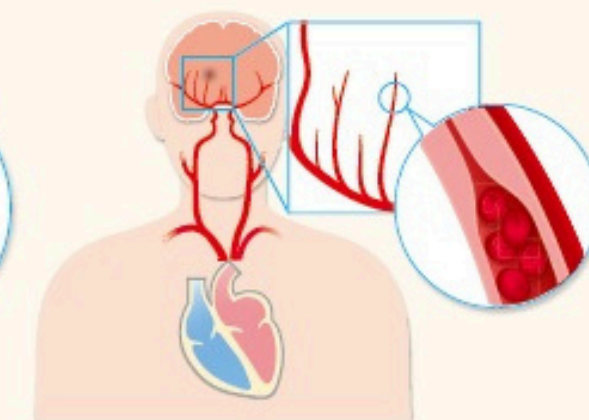


最大の要因は

高血圧 喫煙
動脈硬化
糖尿病 脂質異常症

ラクナ梗塞

脳内の細い動脈が変性、
閉塞して起こる。



最大の要因は

高血圧

脳出血

脳塞栓

血栓

脳梗塞

動脈硬化が原因!

正常

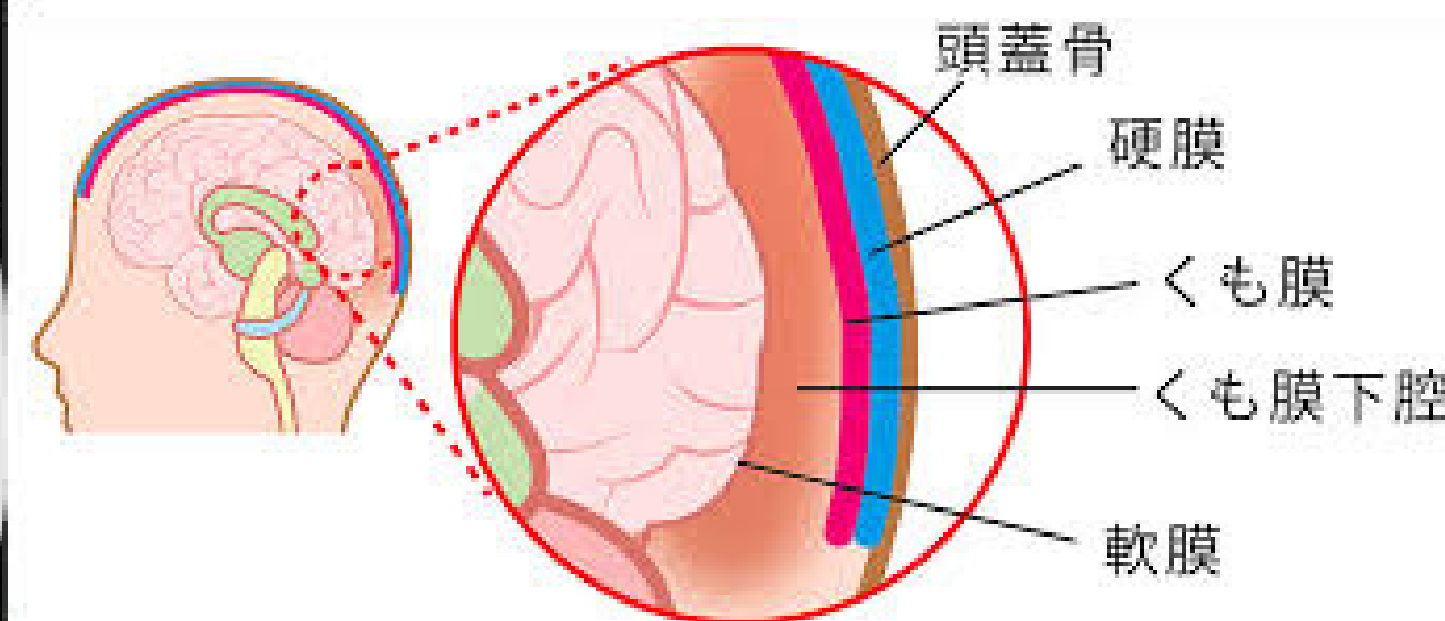
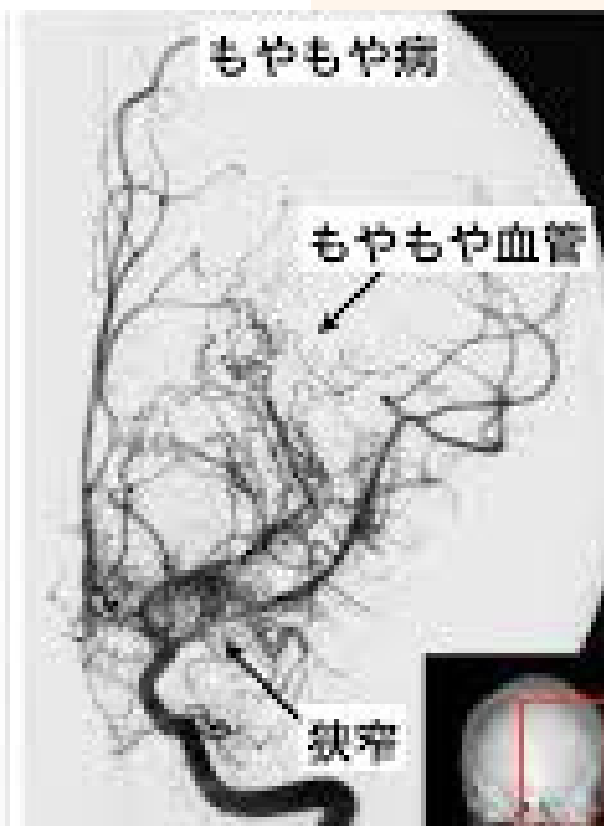


左内頸動脈撮影・正面像

もやもや病

もやもや血管

狭窄



4位脳疾患

4位脳疾患の症状

頭痛、めまい、ふらつきなど、平衡感覚の異常

手足や顔のしびれ、麻痺

呂律が回らない、言葉が出ない、理解できない 意識障害

片方の目が見えない、視野の半分が欠ける、物が2つ見える

歩き方がおかしい(運動失調)

黒目が正面を向いていない(斜視)

脳疾患には、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害、脳腫瘍、顔面けいれん、顔面神経麻痺、パーキンソン病、多発性硬化症などがあります。脳血管疾患の症状は、少しずつ進行する場合もあります。

脳に異常があると、神経を介して様々な臓器に異常が生じ、動悸・息切れ・咳・食欲不振・ムカムカ・下痢・肩こり・筋肉痛など、色々な症状が現れることもあります。

脳梗塞とは、脳の血管が詰まったり、狭くなり血液の流れが低下し酸素や栄養が行き渡らなくなり壊死(えし)を起こした状態をいいます

脳内出血とは、脳の動脈が破れ、出血したものがかたまりになり脳組織を圧迫します。発声障害(言語障害)、失語症、半身不随(運動障害)、意識障害の症状が起こります。

くも膜下出血とは、脳と頭蓋骨の間には、脳組織を保護するための脳膜(内側から軟膜、くも膜、硬膜)があります。このくも膜と軟膜の間にある動脈が破れ、出血することを「くも膜下出血」と呼びます。

もやもや病とは脳に血液を送る太い血管が少しずつ詰まってしまふ、日本人に多くみられますが、患者さんの数は人口10万人あたり6～10人程度と少なく、厚生労働省の指定難病になっています。

脳腫瘍は、脳内で増殖する組織で、がんの場合(悪性)と、がんでない場合(良性)があります。

脳疾患のクスリ・効果・副作用

- 1 **抗うつ薬** 鬱症状の軽減、不安の改善 頭痛、吐き気、性機能障害、眠気
- 2 **抗精神病薬** 統合失調症や双極性障害の症状の軽減 体重増加、倦怠感、動作の鈍化
- 3 **抗てんかん薬** てんかん発作の予防 眠気、めまい、吐き気、皮疹
- 4 **アルツハイマー病治療薬** 認知機能の改善、症状の進行の遅延 下痢、吐き気、睡眠障害
- 5 **パーキンソン病治療薬** 動作の改善、震えの軽減 ナルコレプシー(眠り病)、幻覚、体重の増加
- 6 **抗不安薬** 不安症状の軽減 眠気、記憶障害、依存症のリスク
- 7 **気分安定薬** 双極性障害の気分の安定 体重増加、甲状腺機能の低下、腎機能障害
- 8 **ノルアドレナリン再取り込み阻害薬(NRI)** 注意欠陥多動性障害(ADHD)の症状改善 不眠、口渇、食欲減退



第5位 癌

5位癌症状

- 1 **体重減少** 急激に体重が減少する。
- 2 **疲労感** 常に疲れている。エネルギーの低下を感じる
- 3 **痛み** 特定の部位に持続的な痛みを感じる。
- 4 **皮膚の変化** 褐色の斑点、あざ、または傷の治りが遅い、皮膚に変化
- 5 **持続する咳や声の変化** 喫煙者に多い、持続的な咳や声の変化は癌の兆候
- 6 **腫れやしこり** 特定の部位にしこりや腫れが出る。乳がんやリンパ腫。
- 7 **食欲の低下** 食欲がなくなったり、食べ物に対する興味を失ったりする。
- 8 **消化の問題** 吐き気、便秘や下痢、食事後の不快感などが続く

部位別のがん罹患数（例）

	女性		男性	
1位	乳房	97,142	前立腺	94,748
2位	大腸	67,753	大腸	87,872
3位	肺	42,221	胃	85,325
4位	胃	38,994	肺	84,325
5位	子宮	29,136	肝臓	25,339

2人に1人は癌

男女計：99万9,075例

女性：43万2,607例

男性：56万6,460例

部位別のがん死亡数（人）

	女性		男性	
1位	大腸	24,989	肺	53,750
2位	肺	22,913	大腸	28,099
3位	膵臓	19,860	胃	26,455
4位	乳房	15,912	膵臓	19,608
5位	胃	14,256	肝臓	15,717

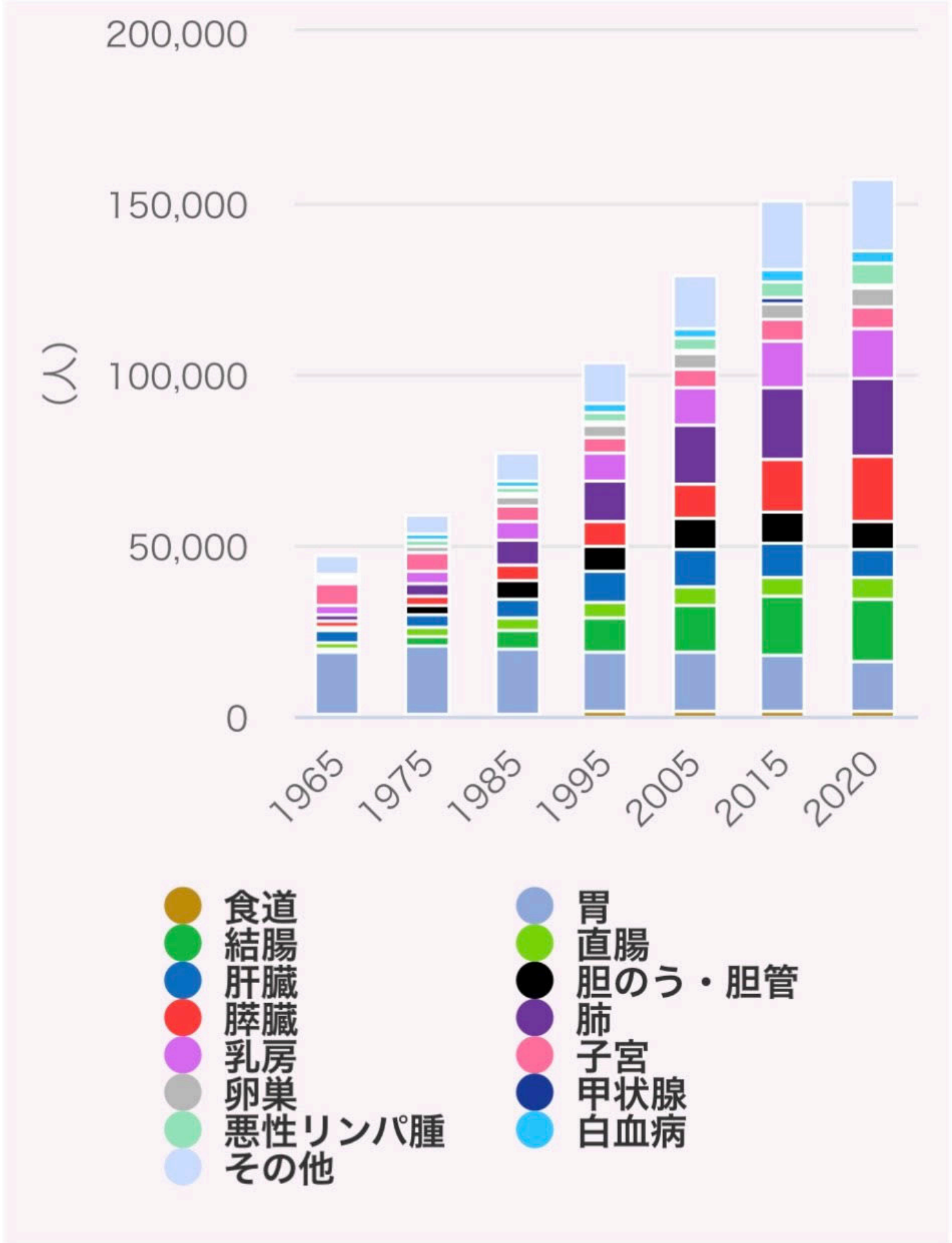
40%死亡

男女計：38万5,797人

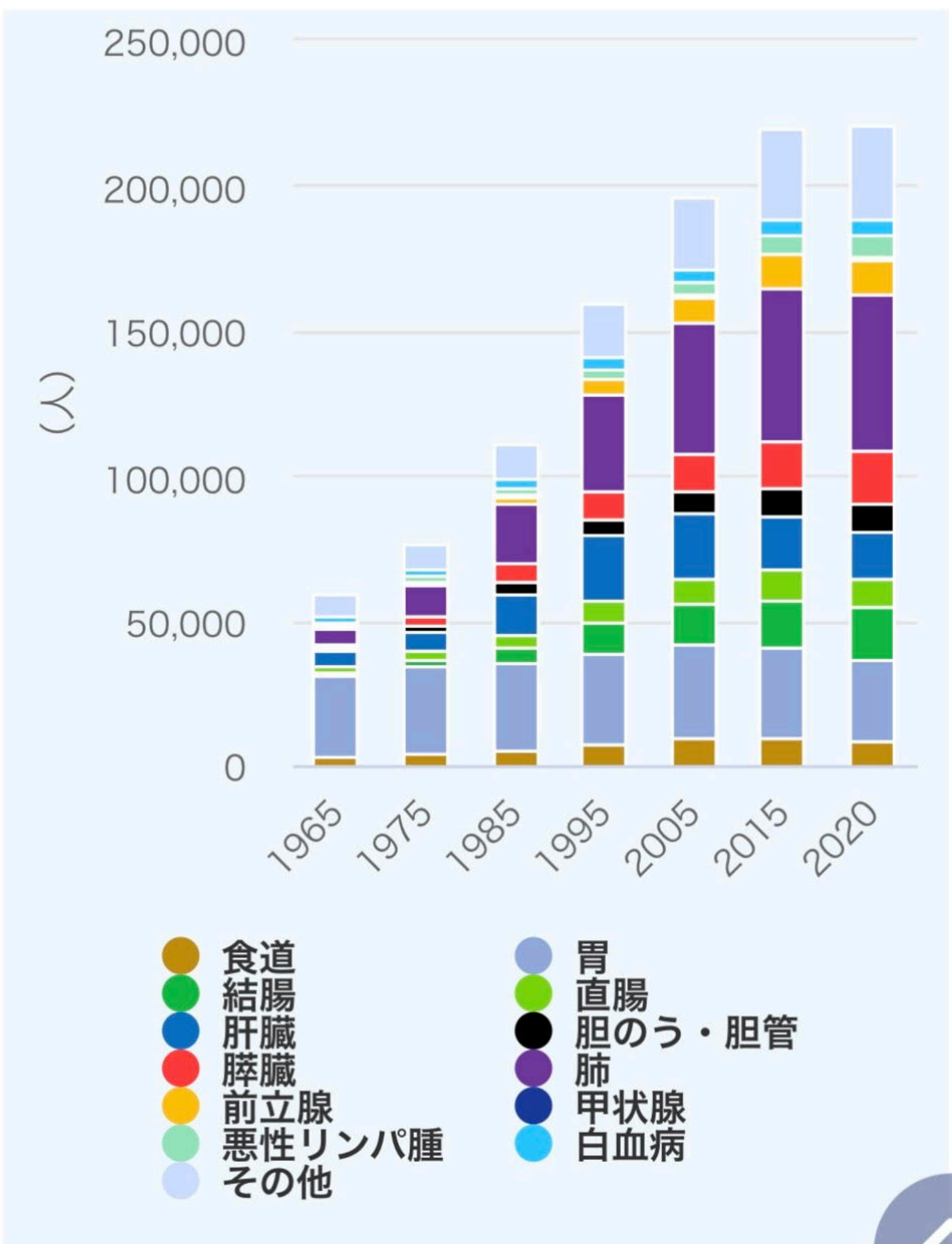
女性：16万2,506人

男性：22万3,291人

死亡数 部位内訳 年次推移【全国 女性】



死亡数 部位内訳 年次推移【全国 男性】



抗がん剤のクスリ・効果・副作用

1 シスプラチン 多くの種類のがん、特に肺がん、卵巣がん、膀胱がんの使用
吐き気、嘔吐、腎障害、血液障害（白血球数の減少、貧血）、しびれなど

2 ドキタキセル 乳がん、肺がん、前立腺がんなどに用いられる 骨髄抑制（血液数値の低下）、吐き気、脱毛、口内炎、倦怠感など

3 フルオロウラシル（5-FU） 大腸がんや胃がんなどに対して使用 下痢、口内炎、骨髄抑制（貧血、白血球数の減少）、疲労感、皮膚反応など。

正常な人の肺

COPDの人の肺

気道が広く
楽に呼吸できる

炎症やたんで気道が狭くなる

6位慢性呼吸器疾患

外から見た
肺胞

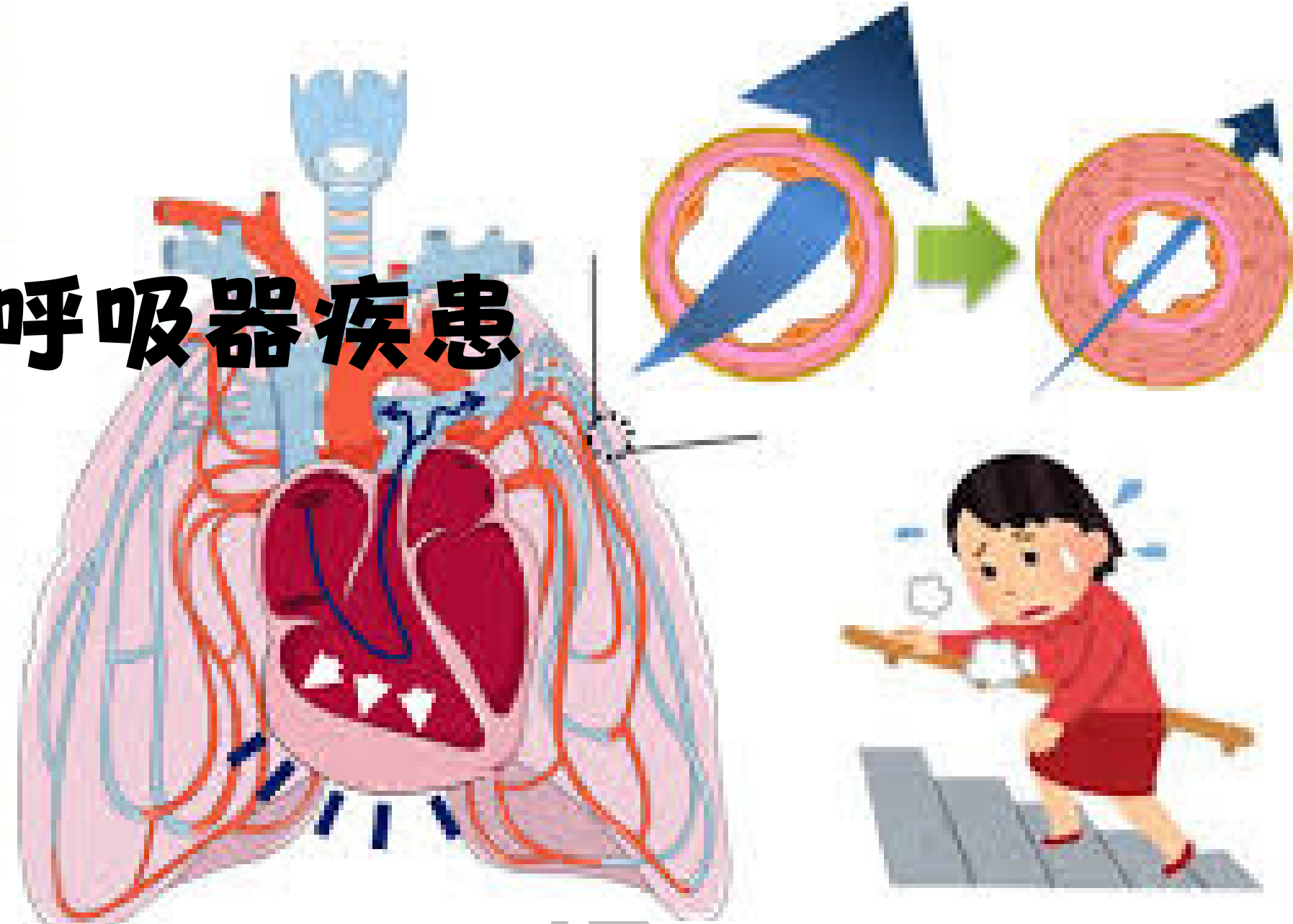
肺胞断面図

横隔膜

肺胞壁がととのっており、
横隔膜はドーム型



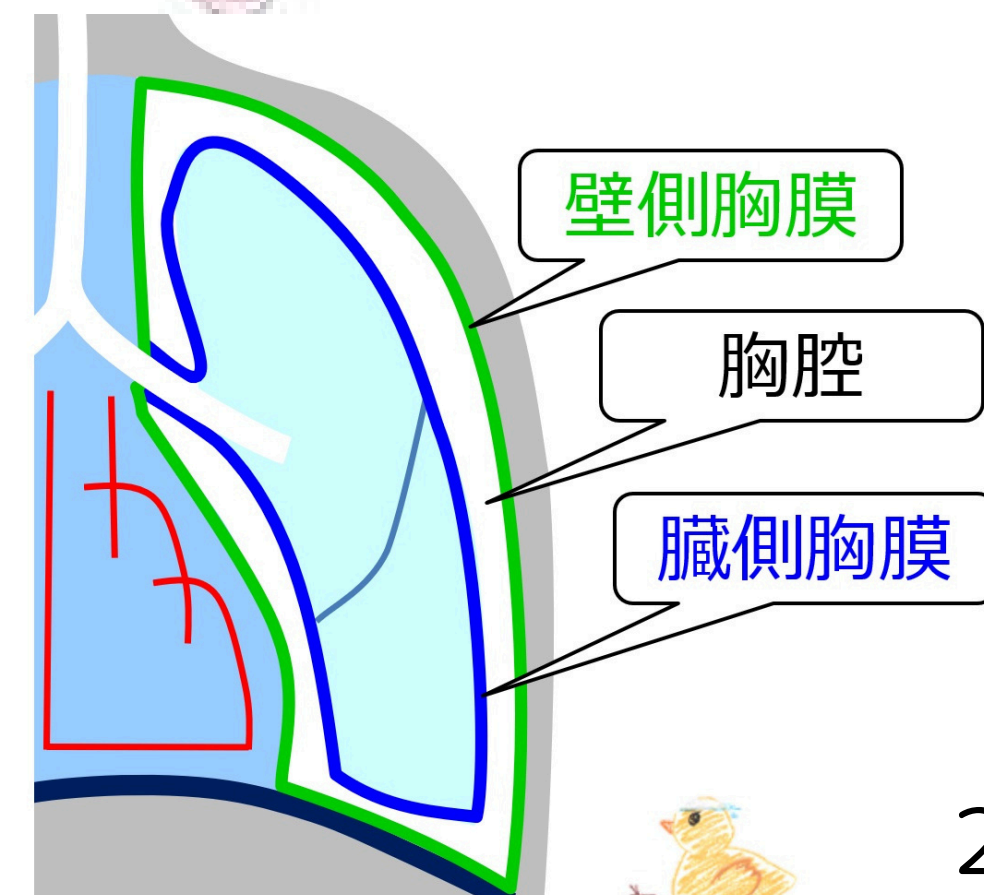
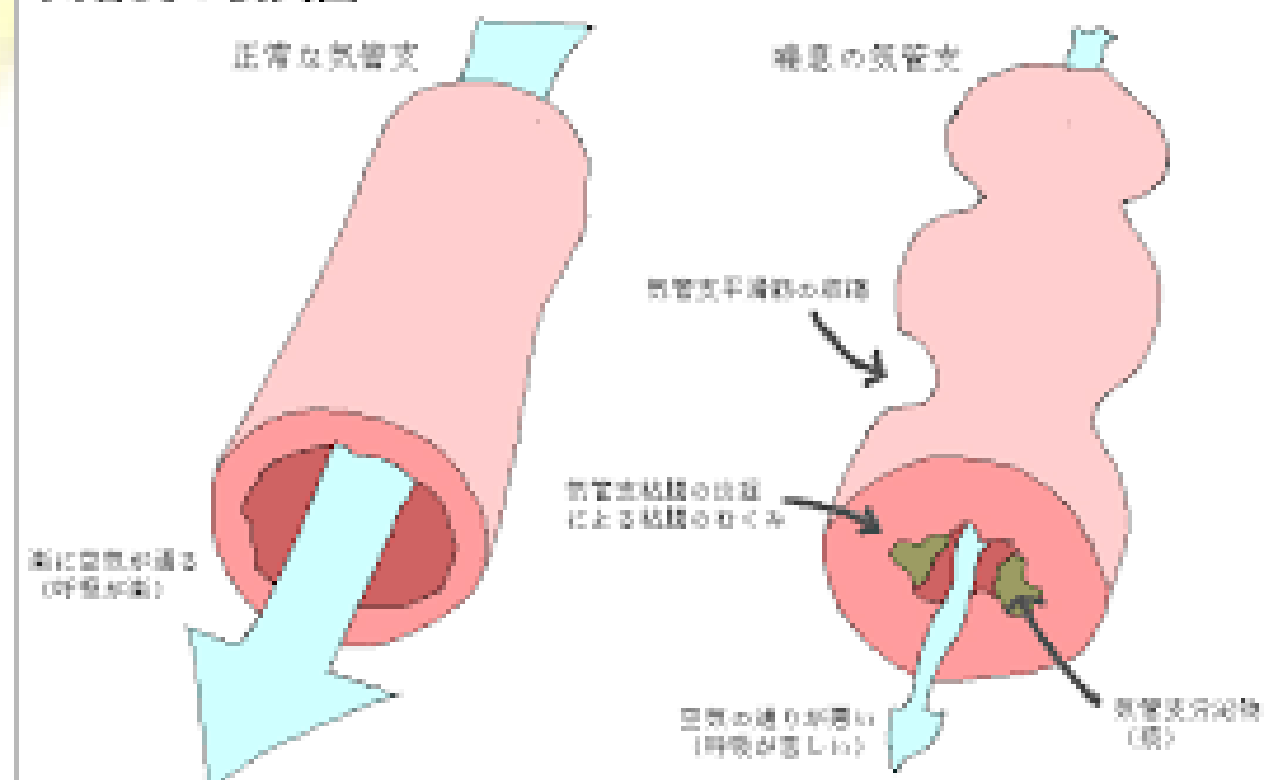
肺胞壁が壊れ、
横隔膜が平らに



気管支の模式図

正常な気管支

喘息の気管支



6位慢性呼吸器疾患症状

- 1 **咳**乾いた咳や痰を伴う、様々な種類
- 2 **喘鳴**息を吸ったり吐いたりする際に聞こえる、笛のような音です
- 3 **息切れ**軽い運動でも息切れ、安静時にも起こる。
- 4 **胸痛**呼吸時や咳をしたときに感じる痛み
- 5 **痰の増加**痰が多く出る、色や粘度が変わる
- 6 **喉の違和感**乾燥感やイガイガ感を感じる
- 7 **発熱**感染症が原因の場合、発熱を伴う。
- 8 **疲労感**慢性的な呼吸器疾患では、全体的な疲労感やだるさを感じる

慢性呼吸器疾患

慢性閉塞性肺疾患(COPD) 有害な粒子やガスを長期間にわたって吸入することで、肺や気管支が炎症を起こして呼吸がしにくくなる進行性の病気です。

気管支喘息 気管が慢性的に炎症、気道が細くなり、呼吸困難や咳、喘鳴などの症状が発作性に発生する病気です。特に夜間から早朝にかけて生じやすい

気管支拡張症とは気管支が非可逆的に拡張し、気管支が拡張すると細菌やカビが増殖して炎症を起こし、感染を繰り返す

過敏性肺炎はアレルギーの原因となるものを吸入から生じるアレルギー性の肺疾患

肺線維症とは、肺胞の壁に炎症や損傷が起こる病気の総称です

慢性胸膜疾患肺を包む胸膜に炎症が慢性的に起こる疾患で、胸膜の肥厚や石灰化、癒着などの変化が見られます。

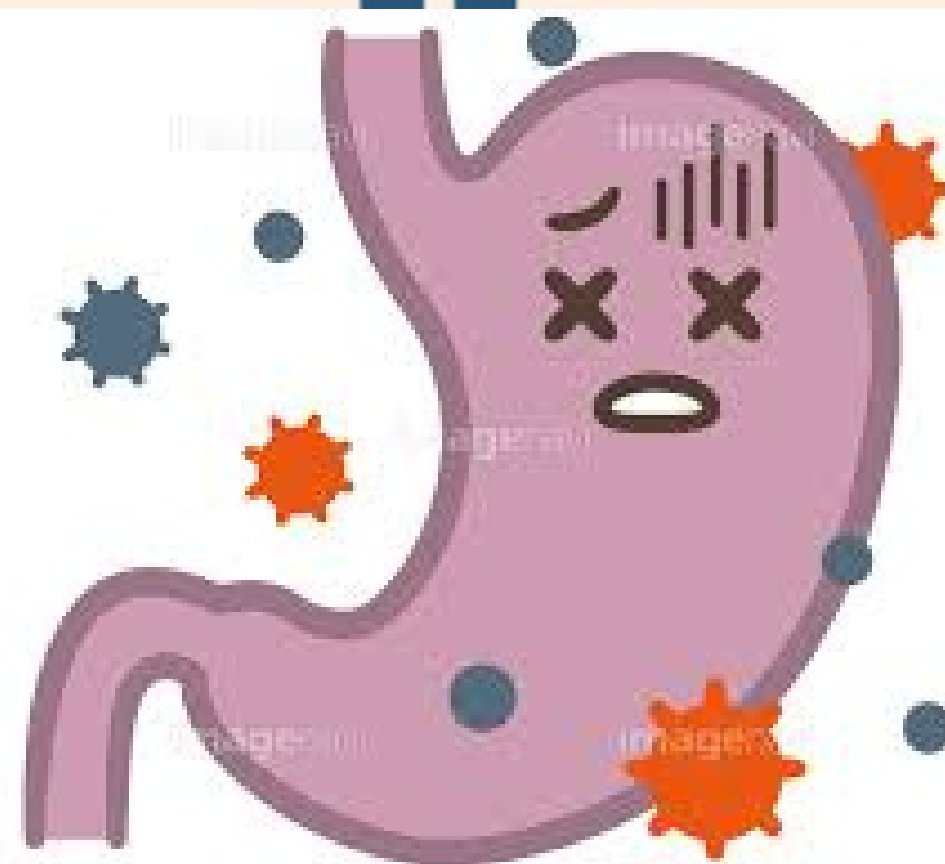
塵肺(じんはい)鉱物や金属、研磨材など微細な粉じんを吸い込む

呼吸器疾患クスリ・効果・副作用

- 1 **β2刺激薬** 気管支を拡張し、喘息など発作時に使用します **心拍数の増加、震え、頭痛、血糖値の上昇。**
- 2 **入ステロイド** 気道の炎症を抑え、喘息や咳に使用 **口腔内の感染症(カンジダ症)、声の変化、長期使用による全身性の副作用(骨密度の低下など)。**
- 3 **長時間作用型 β2刺激薬** 持続的に気管支を拡張し、睡眠時無呼吸症候群などに使用 **心臓の問題(不整脈など)、頭痛、筋肉痛**
- 4 **抗コリン薬** 気管支を拡張し、咳の治療に使用 **口腔乾燥、便秘、視力障害。**
- 5 **ロイコトリエン受容体拮抗薬** アレルギー反応や炎症を抑え、喘息の発作に使用します **頭痛、消化不良、まれに感情の変動**
- 6 **抗ヒスタミン薬** アレルギー症状に使用します **眠気、口渇、めまい**
- 7 **粘液溶解薬** 痰を薄くし、呼吸を楽にします **胃腸障害、アレルギー反応**
- 8 **ステロイド** 気道の強い炎症を短期間で抑えます **体重増加、浮腫、高血糖、長期使用による副作用(骨粗鬆症、免疫抑制)**



7位胃腸疾患



胃腸疾患の症状

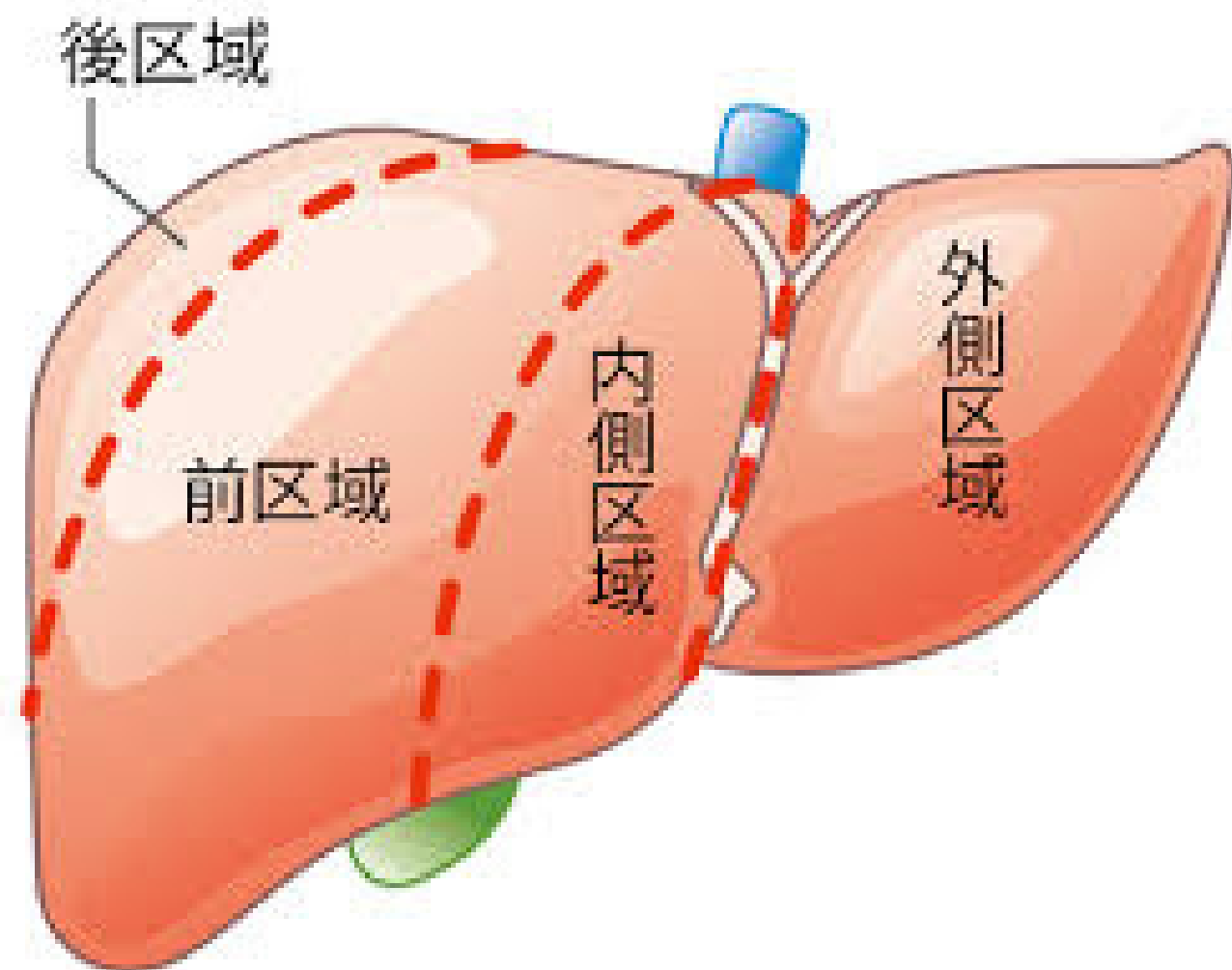
- 1 **腹痛** 胃や腸の不快感や痛み、場所や強さが変わります。
- 2 **吐き気・嘔吐** 食べ物が消化されずに胃が不快になる。
- 3 **下痢** 便が水分過多となり、頻繁に排便する状態。
- 4 **便秘** 便が硬くなり、排便が不規則または困難な状態。
- 5 **腹部の膨満感** ガスがたまり、腹部が腫れているように感じる。
- 6 **食欲不振** 食べる気がしない、または食べる量が減ること。
- 7 **胸焼け(逆流性胃腸炎)** 胃酸が食道に逆流し、痛みを感じる。
- 8 **体重減少** 原因不明の体重減少は、重篤な疾患の兆候である可能性も。

胃腸の病気

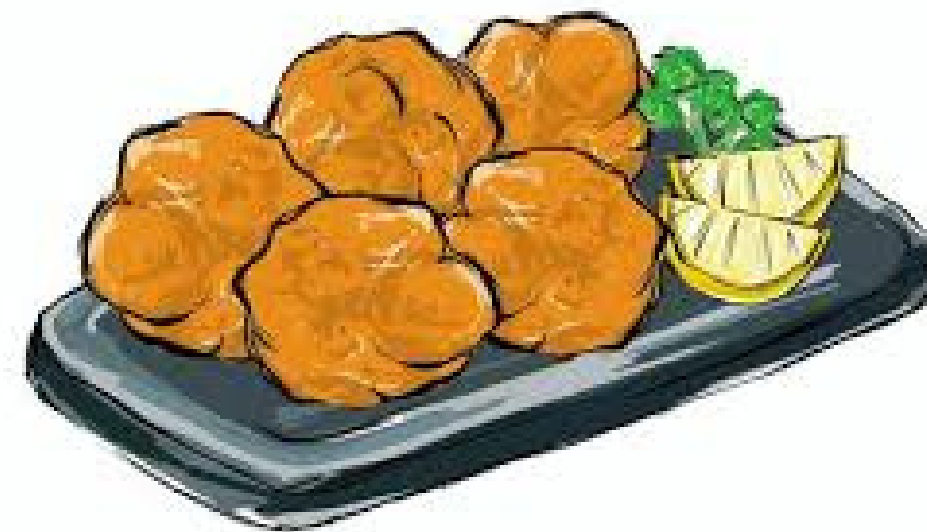
- 1 胃炎**： 胃の粘膜に炎症が起きる疾患。急性と慢性があります。
- 2 胃潰瘍**： 胃の内壁に潰瘍ができる病気。
- 3 逆流性食道炎**：胃酸が食道に逆流し、炎症を引き起こす。
- 4 腸炎**：腸の炎症ウイルスや細菌感染による急性腸炎が多い。
- 5 過敏性腸症候群 (IBS)**：腸の機能に異常。
- 6 消化性潰瘍**：胃や十二指腸に潰瘍ができる病気の総称。
- 7 便秘**：定期的に排便できない状態。
- 8 下痢**：水分が多く液状の便が頻繁に出る状態。

胃腸のクスリ・効果・副作用

- 1 制酸薬 (アルミニウム・マグネシウム)** 胃酸を中和、胃痛や胸やけ便秘下痢電解質バランスの乱れ。
- 2 H₂ブロッカー** 胃酸の分泌を抑制、胃炎や胃潰瘍頭痛、めまい、消化不良、稀に肝機能障害
- 3 プロトンポンプインヒビター** 胃酸の分泌を強力に抑え、食道逆流症や胃潰瘍など腹痛、下痢、便秘、長期使用によるビタミンB12の吸収障害。
- 4 下剤** 便秘を解消するため、腸の動きを促進腹痛、便秘の悪化、依存症状。
- 5 止瀉薬** 下痢を緩和し、腸の動きを抑える便秘、腹部膨満感、稀に重篤な腸閉塞。
- 6 抗菌薬** 胃の感染症 (ピロリ菌感染) の退治下痢、吐き気、アレルギー反応、薬剤耐性のリスク。
- 7 腸内フローラ改善薬** 腸内環境、消化や免疫機能に使用。腹部膨満感、ガス。
- 8 消化酵素 (パンクレアチンなど)** 消化、栄養素の吸収を促進腹痛、下痢、アレルギー反応。



8位肝臓疾患



8位肝疾患症状

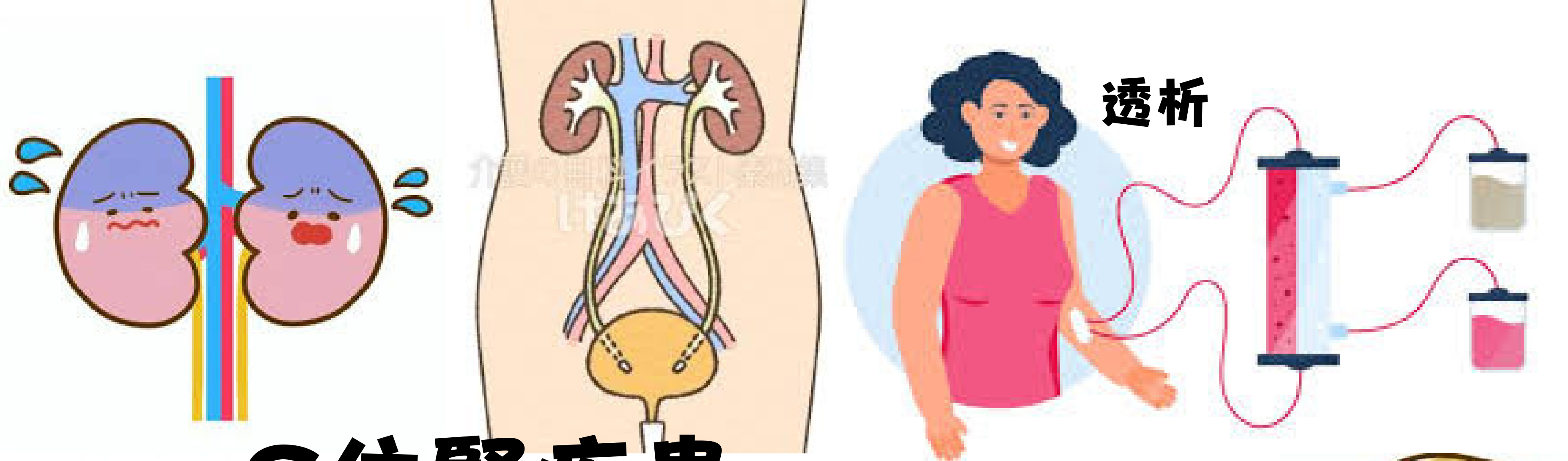
- 1 **疲労感** 常に疲れている。
- 2 **黄疸** 皮膚や目の白い部分が黄色くなること。
- 3 **腹部の腫れや痛み** 特に右上腹部に不快感を感じることもある。
- 4 **食欲不振** 食べる意欲がなくなること。
- 5 **吐き気や嘔吐** 食事の後に気持ち悪くなること。
- 6 **尿の色の変化** 尿が濃い茶色になること。
- 7 **便の色の変化** 便が薄い色になること(灰色がかった色)。
- 8 **かゆみ** 皮膚がかゆくなることもある。
- 9 **体重減少** 理由もなく体重が減ること。
- 10 **出血やあざ** 小さな外的な刺激でも出血しやすい
- 11 **目の充血、目の疲れ、充血**

8位肝臓疾患

1. **肝炎** ウイルス性肝炎(A型、B型、C型) 自己免疫性肝炎
2. **肝硬変** 慢性的な肝炎やアルコールが原因で肝臓が硬くなる病気。
3. **脂肪肝** 非アルコール性脂肪肝疾患やアルコール性脂肪肝疾患。
4. **肝臓がん** 肝細胞癌など、肝臓に発生する悪性腫瘍。
5. **胆石症** 胆嚢や胆管に石ができる病気。
6. **肝臓の感染症** 肝膿瘍など、肝臓に感染が起こる状態
7. **肝移植後合併症** 肝移植を受けた患者における拒絶反応や再発病変
8. **メッツァー症候群** 脂肪肝と糖尿病、高血圧などのメタボリックシンドロームに関連する疾患。

肝臓疾患クスリ・効果・副作用

- 1 **ウルソデオキシコール酸(UDCA)**胆汁の流すのに使用 **下痢、腹痛、皮膚発疹など**
- 2 **アデホビル** **B型肝炎ウイルス**に使用 **腎機能障害、骨密度の低下、頭痛など**
- 3 **インターフェロン** **ウイルス性肝炎(B型、C型)**に使用 **発熱、倦怠感、うつ症状、血液障害など**
- 4 **ソホスブビル** **C型肝炎**の治療に使用 **頭痛、疲労感、吐き気など**
- 5 **ペグインターフェロン** **C型肝炎**に使用 **インフルエンザ様症状、血液障害、脱毛など**
- 6 **ラミブジン** **B型肝炎ウイルス**の抑制 **胃腸症状、疲労、頭痛など**
- 7 **エナラフェン** **B型肝炎ウイルス**の抑制 **頭痛、めまい、疲労感など**
- 8 **シメプレビル** **C型肝炎**に使用 **発疹、光過敏症、肝機能障害など。**



9位腎疾患



9位腎疾患

1. **むくみ(浮腫)**: 腎臓体内に水分が蓄積し、手足や顔がむくむ。
2. **尿の変化** 尿の色が濃い、泡立ちが目立つ、尿の量が減少又は増加
3. **疲労感** 腎機能が低下、体内に老廃物が蓄積、慢性的な疲労感
4. **血尿** 尿に血が混じる、これは腎臓や尿路の問題。
5. **背中痛み** 腎臓の位置に痛みを感じる。特に片側に痛みがある場合は注意
6. **高血圧** 腎臓の機能が低下すると、水分バランスが崩れ、高血圧を引き起こす
7. **食欲不振** 腎機能が低下すると、食欲が減少する。
8. **吐き気や嘔吐** 腎臓の機能低下により、体内に毒素が蓄積し、吐き気をおこす

腎臓の病気

1. **慢性腎疾患 (CKD)** 腎機能が低下する病気で、糖尿病や高血圧が原因
2. **急性腎不全** 突然の腎機能の低下で、脱水や腎臓への血流不足、
3. **糖尿病性腎症** 糖尿病が進行することによって、腎臓の機能が悪化
4. **高血圧性腎疾患** 高血圧が原因で腎臓にダメージを与え、腎機能が低下
5. **腎盂腎炎** 腎臓や腎盂に感染が起こる疾患
6. **多嚢胞性腎疾患 (PKD)** 腎臓に多数の嚢胞が形成される病気
7. **糸球体腎炎** 糸球体の炎症によって腎機能が損なわれる病気
8. **腎癌** 腎臓に発生する癌

腎臓疾患クスリ・効果・副作用

1. **ACE阻害薬** 血圧の低下、心臓の負担軽減、腎機能保護 咳、血中カリウムの上昇、腎機能の悪化、アレルギー反応
2. **ARB** 血圧を下げ、腎機能を保護 血中カリウムの上昇、腎機能の悪化、めまい
3. **利尿剤** 効果 体内の余分な水分を排出し、血圧を下げる 脱水 低カリウム血症 腎機能の悪化
4. **腎保護薬** リンの吸収を抑制し、腎不全の進行を遅らせる 消化不良、便秘、腹部膨満感
5. **EPO製剤** 貧血の改善（赤血球の生成促進） 高血圧、血栓症、注射部位の反応
6. **コレステラミン** コレステロール値の低下、心血管リスクの低減 消化不良、便秘、吸収障害
7. **ビタミンD製剤** カルシウム代謝の正常化、骨の健康維持 高カルシウム血症、悪心、嘔吐
8. **抗血小板薬** 血栓症の予防 消化管出血、アレルギー反応、肝機能障害



10位鬱病



10位精神疾患症状

1. **感情の変動** 極端な気分の変化(抑うつ症状や躁状態)
2. **不安や恐怖** 常に不安を感じたり、強い恐怖感が生じる。
3. **思考の障害** 集中力の低下や判断力の低下、混乱した考え方。
4. **社会的障害** 他人との関係を避けたり、引きこもりがちになる。
5. **身体的症状** 頭痛、腹痛、疲れ、精神的な疾患が身体に影響を及ぼす。
6. **幻覚や妄想** 現実とは異なる感覚(幻聴や幻視)や、誤った信念(妄想)
7. **自傷行為や自殺念慮** 自分自身を傷つける思考や行動

精神疾患病

1. **うつ病** 持続的な悲しみや興味の喪失を伴い、日常生活に影響を及ぼす。
2. **不安障害** 緊張や不安感が過度に強く、日常生活に支障を及ぼす。
3. **双極性障害(躁うつ病)** 躁状態と抑うつ状態を繰り返す疾患。
4. **統合失調症** 現実認識が歪む疾患で、幻覚や妄想が特徴。
5. **強迫性障害** 不安を和らげるための強迫的な思考や行動を繰り返す。
6. **PTSD** ト라우マ体験により生じる不安や恐怖の症状。
7. **注意欠陥多動性障害(ADHD)** 注意力の欠如や過活動が見られる発達障害。
8. **摂食障害** 食事や体重に関する異常な思考や行動を伴う障害

精神疾患クスリ・効果・副作用

1. **SSRI(選択的セロトニン再取り込み阻害剤)**主にうつ病や不安障害に使われ、セロトニンの濃度を増加吐き気、頭痛、性機能障害、睡眠障害。
2. **SNRI(セロトニン・ノルエピネフリン再取り込み阻害剤)**うつ病や神経障害性疼痛に使用、セロトニンとノルエピネフリンを増加させる高血圧、頭痛、眠気、不安
3. **ベンゾジアゼピン** 不安障害の緩和に使用される依存性、眠気、記憶障害、集中力の低下
4. **ラモトリギン**双極性障害の抑うつ状態に用いられる皮膚発疹、めまい、頭痛、吐き気。
5. **リチウム**双極性障害の治療に用いられる腎機能低下、甲状腺機能異常、体重増加
6. **抗精神病薬(第一世代ドーパミン)**統合失調症などに使用され、幻覚や妄想を軽減運動障害、体重増加、ホルモンバランスの乱れ
7. **抗精神病薬(第二世代ドーパミンセロトニン)**統合失調症や双極性障害に使用体重増加、糖尿病リスク、鎮静作用
8. **アドレナリン受容体拮抗薬**不安や睡眠障害に関連した症状を軽減するふらつき、体重増加、疲労感。